

知っておきたい
現代子ども事情

インターネットが生活に欠かせなくなってきた現代。便利ではあるけれど、子どもが使うにはさまざまな危険があることを、存じてしようか。親がその危険性を認識して、子どもに教えることがいかに大切なことか。ITの専門家で二児の母でもある尾花紀子さんにかかいました。

文/石村加奈 イラスト/YUZUKO

親子で安全 インターネット

広がるインターネットの危険

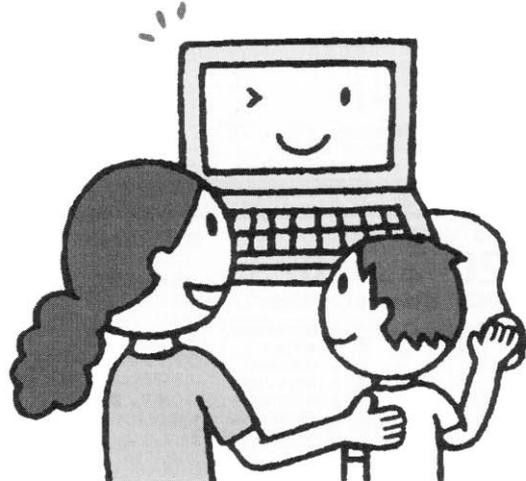
インターネットで子どもが巻き込まれる事件をよく耳にするせいか、インターネットを使わせると自分の子が犯罪や暴力事件、個人情報の流出などの被害にあらうかもしれないという、怖くて危険なイメージをもつ人が増えてきています。

また、子どものころにインターネットがなかった世代の人々にとっては、使い方を教えられた経験がないため、ITが苦手、新しい文化だからわからないという理由に、子どもにインターネットを教えることを避けたり、「自分で工夫して使いなさい」と放りっぱなしにする人もいるのではないのでしょうか。

インターネットで子どもが巻き込まれる事件をよく耳にするせいか、インターネットを使わせると自分の子が犯罪や暴力事件、個人情報の流出などの被害にあらうかもしれないという、怖くて危険なイメージをもつ人が増えてきています。

また、一度でも「見ちゃった」という後ろめたな記憶があれば、もし振り込め詐欺の料金請求メールがきたとき、子どもは不安に陥ったり、親に言えず抱え込んでしまっています。大人でも、まんまとわなにはまってしまうのですから、判断力が未熟な子どもはとくに注意しましょう。

また、一度でも「見ちゃった」という後ろめたな記憶があれば、もし振り込め詐欺の料金請求メールがきたとき、子どもは不安に陥ったり、親に言えず抱え込んでしまっています。大人でも、まんまとわなにはまってしまうのですから、判断力が未熟な子どもはとくに注意しましょう。



インターネットの危険から子どもを守る方法

●親としての意識編



たくさんさんの危険があるからといって、単に子どもをインターネットに触れさせなければよいのでしょうか？ 逆に、危険やマナーを知らないまま自由に使用させてよいのでしょうか？ 安全にインターネットを使うその方法とは――。

どうか子どもに聞かれたとき、それが有益な情報かどうかを判断して教えてあげることがです。子どもにとって必要なことは、技術的な解説ではなく、大人たちが長い人生経験のなかで体得してきた「善悪や危険を判断する力」、「ネット上のコミュニケーションの方法」です。子どもに電話の使い方や教えるときに、電話の対応の仕方は教えますが、電話の構造や仕組みを教えないのと同じなのです。

まずはインターネットの先入観をなくそう

インターネットを操作するうえで、技術的なノウハウに自信のない人は「教え方がわからない」からと逃げ腰になってしまいがち。しかし、インターネットやパソコンに詳しくなくても、大人だからこそ手助けできることはたくさんあります。たとえば、あるホームページがよいか

インターネットが一般的に利用されるようになって、まだ十年足らず。人生では大先輩の大人でも、インターネットの世界では子どもたちと同級生だと考えてみてください。そう考えると親だからといって、子どもにすべてを教えなければ

ならないと気構えなくてもいいと気づくでしょう。もし、インターネットの世界に不安を感じているのであれば、子どもといっしょにインターネットのすばらしさを体験する心構えをしましょう。

メールも 気持ちを伝える道具

今の子どもたちはコミュニケーションが苦手だといわれています。しかし、ほんとうにそうなのでしょうか？ たとえば、メールでしか「ごめんなさい」が言えない子どもがいたとします。親であるあなたは、きちんと顔を見て謝りなさいとしますか？ 親ならば、子どもなりの精いっぱい気持ちを優しく受け止めてあげるでしょう。

子どもからメールを受けたら、「メール読んだよ。これからは気をつけようね」と親が直接、子どもに言葉をかけてあげましょう。そうすれば、メールも立派なコミュニケーション・ツールとしての役割を果たしたことになるのです。

自分たちが子どものころには、こんなコミュニケーション・ツールはありませんでした。それゆえに、大人のほうがメールやインターネットの効能にめんくらついているということはないでしょうか？

ルールやマナーをつくる 手間を惜しまない

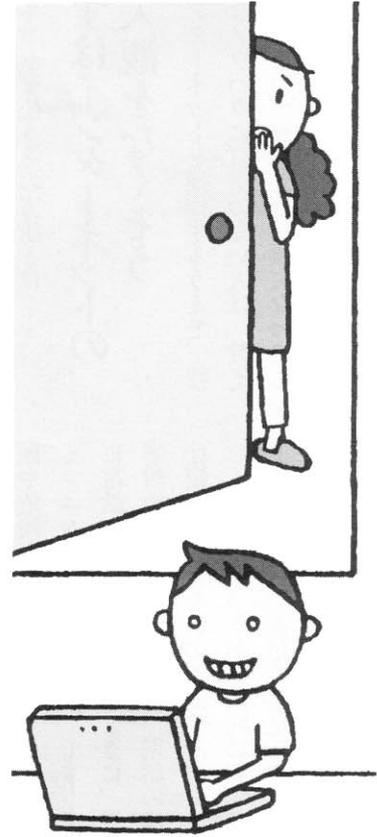
学校で、子どもに携帯電話を持たせるべきか否か、という議論になったことはありませんか？ 緊急時の連絡手段として、携帯電話を持たせたいと願うのは、わが子を守りたいという切実な親心です。しかし、授業中にメールをする児童が出てくるなど、風紀が乱れるからという理由で、反対意見が出るのも現状です。

反対意見を言う人は、インターネットや携帯電話などに関しては、マナーをつくらうとせず、単純に新しいものを導入することで起こるトラブルを避けようとする、大人にとって都合のよい、本末転倒な考え方なのかもしれません。

インターネットや携帯電話などの新しい道具については、まだしっかりとしたルールやマナーが確立されていないかもしれませんが、きっちりそれらを決めて徹底すれば、不必要、触らせないほうがいいという考えにはならないはずです。

ルールやマナーをつくる手間を惜しんでいては、今後のIT社会での成長はできません。IT社会から逃げずに、子どもにとっていちばんよい方法を、まずは各家庭で考えてみましょう。

●親が子どもにできる実践編



ルールとマナーを 親子で徹底する

子どもだけでインターネットを使っている場合、親が許可したウェブサイトにいけなく、親が許可していない…… ネット犯罪からわが子を守るために、禁止ばかりを子どもに強いてはいませんか？ どんなに禁止事項を増やしても、履歴をチェックするなどの監視をしても、好奇心旺盛で柔軟な子どもたちは、いろいろな工夫をして、親に教わっていない機能まで使っている。親に教わっていない機能まで使っている。親に教わっていない機能まで使っている。親に教わっていない機能まで使っている。

まずは、親子でいろいろなホームページを訪ねて、楽しんだり学んだりして、いっしょにパソコンを操作していきま

よう。子どもがやっていることを確認しながら、危険だと判断したら、そのたびに、「掲示板に、メールアドレスや電話番号などの個人情報を書かない」、「知らないメールには返信しない」、「勝手に会員登録や懸賞応募をしない」、「自分以外のパソコンを使ったときは、使った痕跡を消すための処理をする(*)」などの危機管理の基本ルールやマナーを身につけさせましょう。

そして教えるときは、現実の世界との比較を用いて話します。たとえば、「なぜ掲示板にメールアドレスを書いちゃいけないの？」と質問されたら、「おおぜいが降り降りする駅の伝言板に住所を書いたらどんなことが起こる？」と聞き返してみましよう。「怪しい手紙とか知らない人が来ちゃうかも」と気づけば、迷惑メールや知らない人からのメールが来る可能性にも気づきます。現実の世界に

置き換えれば、危険が見えてくるのです。技術ではなく、子どもの判断力を養おう

インターネットについて、親が子どもに教えるべきことは、インターネットを使うときの最低限のルールだけでなく、子ども自身が自分で責任がとれるかどうかの判断力です。判断力をつけるためにいちばん重要なのは、親と子どもが上手にコミュニケーションすることです。

ネット犯罪に子どもが巻き込まれる原因は、たいてい大人にあります。子どもがやることを監視するのはいけません。たとえば、子どもが作ったブログを親に見せたとたん、「いつ、どこで作ったの？」「こんなことを書いたら、みっともないでしょ！」など、うるさい小言を言われたとしたら、子どもは自然と口を閉ざしてしまうかもしれません。

細かいことに過剰反応するのではなく、「自分が子どもの年齢のときも、そんな冒険をしたこともあったな」と大きく構え、トラブルの空気を感取ったときにフォローできる親子関係を築きましょう。小さな失敗（けが）は、大げがをしな

いために必要な学習なんだ！ というくらいに心構えていてください。それが、子どもがなにか不安を感じたときに「安心するために、親に相談しよう！」と思える環境づくりの基盤になるのです。一方、技術的なことでわからないこと

バーチャルな自分を 求める危険を教える

現実社会のつらさや寂しさの逃げ道として、子どもがインターネットに依存しないように注意しましょう。インターネットで知り合った女性が、じつは男性だった、というようにインターネットの向こう側は正体のわからない人がいっぱいなのです。子どもの精神的な安定を親が

つねに把握して、危うさを感じたときは、しばらく使うのをやめる判断を的確に出してあげてください。逃げ道を求めて、インターネットを使うことほど、危険なことはありません。しっかりとコミュニケーションができてこそ、ネット世界を楽しむことができるのです。

おぼな・のりこ 顧客目線のマーケティングやフロモーションなどを手がける「ビジネスコンシェルジュ」を提唱。IT活用の講演、執筆などで活躍中。著書に『子どもといっしょに安心インターネット』（岩波書店）。

(*) インターネットの検索のために書き込んだ言葉や、入力したパスワードなどを消す作業